

浜の活力再生プラン

令和 6 ～10年度

第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	南さつま地区地域水産業再生委員会 ID 1139012
代表者名	宮内一朗（鹿児島県漁業協同組合 南さつま支所運営委員長）

再生委員会の構成員	加世田漁業協同組合、笠沙町漁業協同組合、鹿児島県漁業協同組合、坊泊漁業協同組合、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会、南さつま市
オブザーバー	鹿児島県（南薩地域振興局 林務水産課）

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	① 対象となる地域の範囲：南さつま市 ② 漁業の種類及び対象者：合計 54 名 機船船曳網（3 経営体）、吾智網（2 名）、魚類養殖（4 経営体）、小型底曳網（2 名）、定置網（9 名）、サバ釣（6 名）、刺網・一本釣（28 名） （令和 4 年度末現在）
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

南さつま市は、薩摩半島の南西端に位置し、人口は約31千人、面積は約283.59km²、南薩の名峰として知られる金峰山、日本三大砂丘の1つである吹上浜、坊野間県立自然公園、国の名勝「坊津」を有し、奈良唐招提寺開祖の鑑真大和上の上陸の地、焼酎造りの技術者集団黒瀬杜氏の発祥の地としても知られるなど、豊かな自然と悠久の歴史に恵まれた風光明媚な街である。当市は南側と西側で東シナ海に面し、長い海岸線の北側は広大な砂丘海岸に、南側は一転して変化に富んだりアス海岸になっており、瀬礁が少なく比較的遠浅で広大な沿岸域と、狭隘で静穏な入り江を利用して機船船曳網漁業、吾智網漁業、定置網漁業、魚類養殖業など多種多様な漁業が営まれており、水産業は地域を支える基幹産業の1つになっている。

南さつま地区の漁業は、機船船曳網、吾智網、定置網など、沿岸域に生息する主要魚種の資源量に依存しているが、資源は減少傾向にある。また、漁業者の高齢化率が高く、若年漁業就業者も減少傾向にあり、将来における地域の担い手、労働力が不足している現状にある。

地域には、加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協があり、平成30年度の組合員数は正准合わせて716名（加世田漁協：正組合員71名、准組合員79名、笠沙町漁協：正組合員47名、准組合員168名、鹿児島県漁協：正組合員79名、准組合員163名、坊泊漁協：正組合員33名、准組合員76名）であるのに対し、令和4年度の組合員数は608名（加世田漁協：正組合員65名、准組合員72名、笠沙町漁協：正組合員42名、准組合員115名、鹿児島県漁協：正組合員74名、准組合員133名、坊泊漁協：正組合員30名、准組合員77名）と減少傾向にある。

また浜の活力再生プランに参加する4漁協の平成30年度の水揚量は2,116トン、水揚金額1,119百万円（加世田漁協：水揚量141トン、水揚金額175百万円。笠沙町漁協：水揚量949トン、水揚金額190百万円。鹿児島県漁協：水揚量732トン、水揚金額311百万円。坊

泊漁協：水揚量294トン、水揚金額443百万円）であるのに対し、令和4年度の水揚量は1,572トン、水揚金額801百万円（加世田漁協：水揚量7トン、水揚金額5百万円。笠沙町漁協：水揚量646トン、水揚金額170百万円。鹿児島漁協：水揚量789トン、水揚金額338百万円。坊泊漁協：水揚量130トン、水揚金額288百万円）と減少傾向にある。

特に、加世田漁協の水揚げの主力である機船船曳網漁業では、令和2年から続く不漁により従業員の削減、漁業種類の転換を余儀なくされる経営体も出てくるなど、年を追うごとに経営状況は厳しくなっている。また、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）の定置網漁業ではWCPFC（中西部太平洋マグロ類委員会）が設定したクロマグロの漁獲上限を遵守するため、県の管理するクロマグロの漁獲量がTAC採捕可能数量を超えた場合には、混獲したクロマグロを放流せざるを得ない状況にあり、それに費やす膨大な手間が漁業者の負担になっている。さらに鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協の魚類養殖業では、相次ぐ台風等の災害による施設の破損、種苗の斃死等により計画生産・計画販売に支障を来たしている。

漁業者の減少・高齢化、後継者不足、魚価の低迷、燃油価格の高騰など多く課題を抱える中で、当該地区では、漁獲向上や資源増大を目指し、マダイ・ヒラメ等の種苗放流やホンダワラ等による藻場造成に取り組んできた。

今後は、さらなる漁業収入の向上とコスト削減を目指し、第2期で実施した取り組みを継続しながら、魚価向上、販路拡大、漁場造成、加工品開発などの新たな取り組みにより漁業所得の向上を図る。

（2）その他の関連する現状等

南さつま市は、平成17年に加世田市、笠沙町、大浦町、坊津町及び金峰町の1市4町が合併して誕生した比較的新しい街で、ちりめん、ブリ、キビナゴ、ヒゲナガエビなど多くの水産物が水揚げされることから古くから漁業の街として知られているが、一方で温暖な気候や水はけの良い砂地を活かして、かぼちゃ、きんかん、らっきょうなど農業が盛んな地でもある。

南さつま市の西回り海岸ルートは、出入りの複雑なリアス海岸が創り出す壮大な景観を有することで知られ、道中の南さつま海道八景と称される景色は、非日常を演出するには十分なドライブコースとなっており県内外から訪れる観光客からの評価も高い。またその沿線には、平成14年に大浦海岸に集団座礁した全長13mのマッコウクジラの骨格標本を展示した「くじらの眠る丘」、伝統の黒瀬杜氏の技を今に伝える「杜氏の里」などの観光施設、幾多の温泉施設があり、海の透明度の高さを活かしたダイビング、遠浅の海と風を活かしたカイトボードなど充実したマリンレジャーと相まって地域の重要な観光資源となっている。

当市は、本県最大の人口を有する鹿児島市から50km圏内に位置し、隣接する日置市、南九州市、枕崎市とは国道225号、226号、270号線を介して繋がっており、バス路線などの交通網も発達しアクセスもしやすいことから、都市部との人口交流の面から農林水産業や観光業は、地域活性化につながる貴重な収入源として期待されている。

こうした状況にある一方で、平成2年の国勢調査において約48千人であった人口は、市町村合併があった平成17年には約42千人、令和2年には約33千人と減少に歯止めが掛からない状況となっている。また、令和2年の市の総人口に占める65歳以上の高齢人口比率は40.2%となっており、県平均の32.5%と比べて非常に高く、若年人口の流出と少子高齢化が地域経済の維持・発展を図る上で深刻な課題となっている。

3 活性化の取組方針

（1）前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

1. 漁業収入向上対策

①漁場生産力の向上（藻場造成、種苗放流、クロマグロ混獲回避、魚礁の整備による漁獲量の増大）

- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、鹿児島水産高校や県水産技術開発センターの指導・協力のもと、国の「水産多面的機能発揮対策事業」等を利用して、仔稚魚の保育の場・隠れ家・餌場となるアマモ場やガラモ場の造成を行う。また、藻場保全の技術が確立した暁には、国の「水産基盤整備事業」等の導入により藻場礁を整備し造成面積の拡大に努める。
- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、国の「水産多面的機能発揮対策事業」等を利用して、沿岸有用種であるアオリイカ資源の増大を図るため人工イカ柴産卵床の整備を行う。
- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、県の「豊かな海づくり総合推進事業」を活用し、公益財団法人かごしま豊かな海づくり協会が生産したマダイ、ヒラメ等の種苗を購入し、資源の回復、増大を図るため、種苗放流を行う。
- ・笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）では、水産資源の維持増大を図るため、県の管理するクロマグロの漁獲量がTAC採捕可能数量を超えているときに定置網にクロマグロが入網した場合は、放流するなど適切な資源管理を実施する。
- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、国の「水産基盤整備事業」等を活用した魚礁の整備により、一本釣り、刺網業者によるブリ類、タイ類、アラ類等の水揚げ増大と操業の効率化による漁業コストの削減を図る。

②魚価の向上、加工品開発、販路開拓（共同集出荷等）

- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、機船船曳網漁業、吾智網漁業、小型底曳網漁業、定置網漁業、刺網漁業、一本釣り漁業、魚類養殖業で獲れるちりめん、ブリ、ヒゲナガエビ、キビナゴ、サバ、月日貝、養殖クロマグロなどの地域有用種及び小型底曳網漁業や定置網漁業等で混獲され廃棄されているスミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウ等の未利用・低利用魚を、鹿児島県漁協直営店「おいどん市場」、県内大手量販店、近隣スーパー、東京・大阪・福岡など都市部のデパート・飲食店、地域内外のイベント等で積極的に販売することで知名度の向上、魚価の向上、販路拡大につなげる。
- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、県水産技術開発センターや鹿児島大学など専門家らの指導を仰ぎながら、地域で水揚げされるブリ、カンパチ、ヒゲナガエビ、スミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウなどの魚介類について加工品開発・販売を行い、魚価の向上につなげる。
- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、活魚、鮮魚、水産加工品等が効率的に効果的に販売できるようのはり旗、法被など販売促進資材の整備を行う。
- ・笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）の定置網業者は、漁獲物を鹿児島市中央卸売市場若しくは笠沙市場に出荷しているが、令和4年度の両市場の取扱単価を比較してみると、鹿児島市中央卸売市場が約364円/kg、笠沙市場が約

247円/kgと両者に約117円/kgの差があることが分かった。そこで笠沙市場向けの水産物のうち適正供給量を超える分を鹿児島市中央卸売市場に出荷することができれば定置網業者の漁業所得の向上、漁業経営の改善に繋がるものと思われる。しかし笠沙市場へ出荷している定置網業者は、鹿児島市中央卸売市場への輸送手段を持っていない。そこで地元仲買・漁業者の理解・協力のもと、笠沙町漁協が、JAXAの「種子島周辺漁業対策事業」等を導入して大型保冷車を整備し、共同集出荷体制を構築することで、定置網業者の魚価の向上、漁業所得の向上、経営基盤の強化につなげる。

2. 漁業コストの削減

①燃油コストの削減（省エネ機器の導入、船底清掃、減速航行等）

- ・機船船曳網業者、吾智網業者、定置網業者、魚類養殖業者、刺網業者、一本釣り業者は、定期的に船底清掃、プロペラ清掃を行うほか、減速航行、係留中の機関停止を徹底し、燃油コストの削減を図る。また、エンジン更新の際は、省エネ型のエンジンを導入することで燃油コストの削減を図る。

②操業の協業化

- ・機船船曳網業者は、探索船による魚影の探索、操業・製品加工を交代制にするなど徹底した操業の効率化に努める。

3 漁村の活性化のための取組

①新規就業者の確保・育成

- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協では、漁業者の減少・高齢化が進んでおり、漁業後継者不足が深刻化している。そこで、県、南さつま市、鹿児島県漁業協同組合連合会（以後、県漁連という。）が行っている新規就業者確保育成の研修制度や支援制度を活用して漁業後継者の確保に努める。

②地産地消の推進

- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、保育園、幼稚園、小中学校における出前授業、魚の捌き方教室を開催するなど、南さつま市内における魚食普及を推進する。
- ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、学校給食へ魚介類メニューを導入することにより、地域水産物に対する認知度向上と将来にわたる地域水産物の消費拡大につなげる。

③共同利用施設の改修・整備

- ・鹿児島県漁協（野間池支所）の荷捌き施設は、老朽化が進み、天井のコンクリートが剥離し作業場に落下するなど、安全面、衛生面で支障を来している。このため、荷捌き施設の改修・整備ができるよう国や県に対して要望し、早急に整備を行う。
- ・鹿児島県漁協（秋目支所）の冷凍冷蔵庫は、現在使用不能な冷媒ガス（フロンガス）に対応した旧式である上、施設・機器等の老朽化が進んでいるため、維持管理に経費を要している。使用可能な冷媒ガスに対応した冷凍冷蔵庫に更新できるよう国や県に要望し、早急に整備を行う。

(3) 資源管理に係る取組

- ・鹿児島県漁業調整規則により、採捕できる水産動物の体長制限や採捕禁止期間を設けるとともに、漁法の制限等が行われている。
- ・漁協の漁業権行使規則により、採捕できる水産動物の体長制限や採捕禁止期間を設けている。
- ・鹿児島海区漁業調整委員会指示により、マダイ、ヒラメの体長制限を設定する。
- ・機船船曳網漁業：休漁（1月から2月までのうち10日間を、一斉休漁とする）
- ・底曳網漁業：毎週土曜日を休漁日とする
- ・キビナゴ流網漁業：毎週日曜日もしくは毎週1日、または4～7月の毎月5日間を休漁日とする
- ・サバー一本釣り漁業：5月～11月（最盛期）の毎月5日間を休漁日とする
- ・定置網漁業：魚取り部の目合い規制と産卵場整備及び種苗放流（マダイ）資源管理計画を策定し、禁漁期間や保護区及び保護期間を設定する。

(4) 具体的な取組内容

1 年目（令和6年度） 所得向上率（基準年比）1.1%

漁業収入向上のための取組	①漁場生産力の向上（藻場造成、種苗放流、クロマグロ混獲回避、魚礁の整備による漁獲量の増大） ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、仔稚魚の保育の場・隠れ家・餌場となるアマモ場やガラモ場の造成を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、沿岸有用種であるアオリイカ資源の増大を図るため人工イカ産卵床の整備を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、県の「豊かな海づくり総合推進事業」を活用し、公益財団法人かごしま豊かな海づくり協会が生産したマダイ、ヒラメ等の種苗を購入し、資源の回復・増大を図るため種苗放流を行う。 ・笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）は、水産資源の維持増大を図るため、県の管理するクロマグロの漁獲量がTAC採捕可能数量を超えているときに定置網にクロマグロが入網した場合は、放流するなど適切な資源管理に努める。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、ブリ類、タイ類、アラ類等の水揚げ増大と操業の効率化による漁業コストの削減を図るため、魚礁の整備に向けて国や県に対し事業が採択されるよう要望を行う（全3箇所中1箇所目）。 ②魚価の向上、加工品開発、販路開拓（共同集出荷） ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、機船船曳網漁業、吾智網漁業、小型底曳網漁業、定置網漁業、刺網漁業、一本釣り漁業、魚類養殖業で獲れるちりめん、ブリ、ヒゲナガエビ、キビナゴ、サバ、月日貝、養殖クロマグロなどの地域有用種及び小型底曳網漁業や定置網漁業等で混獲され廃棄されているスミクイウオ、アカカサゴ、
---------------------	---

	キホウボウ等の未利用・低利用魚を、鹿児島県漁協直営店「おいどん市場」、県内大手量販店、近隣スーパー、東京・大阪・福岡など都市部のデパート・飲食店、地域内外のイベント等で積極的に販売することで、知名度の向上、魚価の向上、販路拡大につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、県水産技術開発センターや鹿児島大学など専門家らの指導を仰ぎながら、地域で水揚げされるブリ、カンパチ、ヒゲナガエビ、スミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウなどの魚介類について加工品開発・販売を行い、魚価の向上につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で活魚、鮮魚、水産加工品等が効率的に効果的に販売できるようなぼり旗、法被など販売資材の整備を行う。 ・笠沙町漁協は、鹿児島市中央卸売市場に共同集出荷するための大型保冷車の整備に向けて、国や県に対し計画協議を行う。
漁業コスト削減のための取組	①燃油コストの削減（省エネ機器の導入、船底清掃、減速航行等） ・機船船曳網業者、吾智網業者、定置網業者、養殖業者、刺網業者、一本釣り業者は、定期的に船底清掃、プロペラ清掃を行うほか、減速航行、係留中の機関停止を徹底し、燃油コストの削減を図る。また、エンジン更新の際は、省エネ型のエンジンを導入することで燃油コストの削減を図る。 ②操業の協業化 ・機船船曳網業者は、探索船による魚影の探索、操業・製品加工を交代制にするなど徹底した操業の効率化に努める。
漁村の活性化のための取組	①新規漁業就業者の確保・育成 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協では、漁業者の減少・高齢化が進んでおり、漁業後継者不足が深刻化している。そこで、県、南さつま市、県漁連が行っている新規就業者確保育成の研修制度や支援制度を活用して漁業後継者の確保に努める。 ②地産地消の推進 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、笠沙水産加工グループ、(有)ヤマチョウ、海の未来を語る会と共同で、保育園、幼稚園、小中学校における出前授業、魚の捌き方教室を開催するなど、南さつま地区内の魚食普及を推進する。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、笠沙水産加工グループ、(有)ヤマチョウ、海の未来を語る会と共同で、学校給食へ魚介類メニューを導入し、地域水産物に対する認知度向上、地域水産物の消費拡大につなげる。

	③計画的な設備の更新 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、老朽化が進み荷捌き作業に支障が生じている野間池漁港の荷捌き施設の改修・整備に向けて国や県に対し事業が採択されるよう要望を行う。 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、秋目漁港における使用可能な冷媒ガスに対応した冷凍冷蔵施設の整備に向けて、国や県に対して事業が採択されるよう要望を行う。
活用する支援措置等	・種子島周辺漁業対策事業（JAXA） ・基地周辺対策施設整備事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業競争力強化緊急事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）

2 年目（令和 7 年度） 所得向上率（基準年比）1.1%

漁業収入向上のための取組	①漁場生産力の向上（藻場造成、種苗放流、クロマグロ混獲回避、魚礁の整備による漁獲量の増大） ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、仔稚魚の保育の場・隠れ家・餌場となるアマモ場やガラモ場の造成を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、沿岸有用種であるアオリイカ資源の増大を図るため人工イカ柴産卵床の整備を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、県の「豊かな海づくり総合推進事業」を活用し、公益財団法人かごしま豊かな海づくり協会が生産したマダイ、ヒラメ等の種苗を購入し、資源の回復、増大を図るため種苗放流を行う。 ・笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）は、水産資源の維持増大を図るため、県の管理するクロマグロの漁獲量がTAC採捕可能数量を超過しているときに定置網にクロマグロが入網した場合は、放流するなど適切な資源管理に努める。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、ブリ類、タイ類、アラ類等の水揚げ増大と操業の効率化による漁業コストの削減を図るため、魚礁の整備に向けて、国や県に対し事業が採択されるよう要望を行う（全3箇所中2箇所目）。 ②魚価の向上、加工品開発、販路開拓（共同集出荷） ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、機船船曳網漁業、吾
--------------	---

	智網漁業、小型底曳網漁業、定置網漁業、刺網漁業、一本釣り漁業、魚類養殖業で獲れるちりめん、ブリ、ヒゲナガエビ、キビナゴ、サバ、月日貝、養殖クロマグロなどの地域有用種及び小型底曳網漁業や定置網漁業等で混獲され廃棄されているスミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウ等の未利用・低利用魚を、鹿児島県漁協直営店「おいどん市場」、県内大手量販店、近隣スーパー、東京・大阪・福岡など都市部のデパート・飲食店、地域内外のイベント等で積極的に販売することで、知名度の向上、魚価の向上、販路拡大につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、県水産技術開発センターや鹿児島大学など専門家らの指導を仰ぎながら、地域で水揚げされるブリ、カンパチ、ヒゲナガエビ、スミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウなどの魚介類について加工品開発・販売を行い、魚価の向上につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で活魚、鮮魚、水産加工品等が効率的に効果的に販売できるようなぼり旗、法被など販売資材の整備を行う。 ・笠沙町漁協は、鹿児島市中央卸売市場に共同集出荷するための大型保冷車の整備を実施する。
漁業コスト削減のための取組	①燃油コストの削減（省エネ機器の導入、船底清掃、減速航行等） ・機船船曳網業者、吾智網業者、定置網業者、養殖業者、刺網業者、一本釣り業者は、定期的に船底清掃、プロペラ清掃を行うほか、減速航行、係留中の機関停止を徹底し、燃油コストの削減を図る。また、エンジン更新の際は、省エネ型のエンジンを導入することで燃油コストの削減を図る。 ②操業の協業化 ・機船船曳網業者は、探索船による魚影の探索、操業・製品加工を交代制にするなど徹底した操業の効率化に努める。
漁村の活性化のための取組	①新規漁業就業者の確保・育成 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協では、漁業者の減少・高齢化が進んでおり、漁業後継者不足が深刻化している。そこで、県、南さつま市、県漁連が行っている新規就業者確保育成の研修制度や支援制度を活用して漁業後継者の確保に努める。 ②地産地消の推進 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、保育園、幼稚園、小中学校における出前授業、魚の捌き方教室を開催するなど、南さつま地区内の魚食普及を推進する。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、笠沙水産加工グループ、(有)ヤマチョウ、海の未来を語る会と共同で、学校給食へ魚介類メニューを導

	入し、地域水産物に対する認知度向上、地域水産物の消費拡大につなげる。 ③計画的な設備の更新 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、老朽化が進み、荷捌き作業に支障を来している野間池漁港の荷捌き施設の改修・整備に向けて国や県に対し事業が採択されるよう要望を行う。 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、秋目漁港における使用可能な冷媒ガスに対応した冷凍冷蔵施設の整備に向けて、国や県に対して事業が採択されるよう要望を行う。
活用する支援措置等	・種子島周辺漁業対策事業（JAXA） ・基地周辺対策施設整備事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業競争力強化緊急事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）

3年目（令和8年度） 所得向上率（基準年比）22.5%

漁業収入向上のための取組	①漁場生産力の向上（藻場造成、種苗放流、クロマグロ混獲回避、魚礁の整備による漁獲量の増大） ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、仔稚魚の保育の場・隠れ家・餌場となるアマモ場やガラモ場の造成を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、沿岸有用種であるアオリイカ資源の増大を図るため人工イカ産卵床の整備を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、県の「豊かな海づくり総合推進事業」を活用し、公益財団法人かごしま豊かな海づくり協会が生産したマダイ、ヒラメ等の種苗を購入し、資源の回復、増大を図るため種苗放流を行う。 ・笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）は、水産資源の維持増大を図るため、県の管理するクロマグロの漁獲量がTAC採捕可能数量を超えているときに定置網にクロマグロが入網した場合は、放流するなど適切な資源管理に努める。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、ブリ類、タイ類、アラ類等の水揚げ増大と操業の効率化による漁業コストの削減を図るため、魚礁の整備に向けて、国や県に対し事業が採択されるよう要望を行う（全3箇所中3箇所目）。 ②魚価の向上、加工品開発、販路開拓（共同集出荷） ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久
--------------	--

	志支所)、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、機船船曳網漁業、吾智網漁業、小型底曳網漁業、定置網漁業、刺網漁業、一本釣り漁業、魚類養殖業で獲れるちりめん、ブリ、ヒゲナガエビ、キビナゴ、サバ、月日貝、養殖クロマグロなどの地域有用種及び小型底曳網漁業や定置網漁業等で混獲され廃棄されているスミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウ等の未利用・低利用魚を、鹿児島県漁協直営店「おいどん市場」、県内大手量販店、近隣スーパー、東京・大阪・福岡など都市部のデパート・飲食店、地域内外のイベント等で積極的に販売することで、知名度の向上、魚価の向上、販路拡大につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、県水産技術開発センターや鹿児島大学など専門家らの指導を仰ぎながら、地域で水揚げされるブリ、カンパチ、ヒゲナガエビ、スミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウなどの魚介類について加工品開発・販売を行い、魚価の向上につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で活魚、鮮魚、水産加工品等が効率的に効果的に販売できるよりのぼり旗、法被など販売資材の整備を行う。 ・笠沙町漁協は、整備された大型保冷車が適切に運営されるよう運用管理を開始する。
漁業コスト削減のための取組	①燃油コストの削減（省エネ機器の導入、船底清掃、減速航行等） ・機船船曳網業者、吾智網業者、定置網業者、養殖業者、刺網業者、一本釣り業者は、定期的に船底清掃、プロペラ清掃を行うほか、減速航行、係留中の機関停止を徹底し、燃油コストの削減を図る。また、エンジン更新の際は、省エネ型のエンジンを導入することで燃油コストの削減を図る。 ②操業の協業化 ・機船船曳網業者は、探索船による魚影の探索、操業・製品加工を交代制にするなど徹底した操業の効率化に努める。
漁村の活性化のための取組	①新規漁業就業者の確保・育成 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協では、漁業者の減少・高齢化が進んでおり、漁業後継者不足が深刻化している。そこで、県、南さつま市、県漁連が行っている新規就業者確保育成の研修制度や支援制度を活用して漁業後継者の確保に努める。 ②地産地消の推進 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、保育園、幼稚園、小中学校における出前授業、魚の捌き方教室を開催するなど、南さつま市内の魚食普及を推進する。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久

	志支所)、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、学校給食へ魚介類メニューを導入し、地域水産物に対する認知度向上と地域水産物の消費拡大につなげる。 ③計画的な設備の更新 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、老朽化が進み、荷捌きに支障を来している野間池漁港の荷捌き施設の改修・整備に向けて国や県に対し計画協議を行う。 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、秋目漁港における使用可能な冷媒ガスに対応した冷凍冷蔵施設の整備に向けて、国や県に対して計画協議を行う。
活用する支援措置等	・種子島周辺漁業対策事業 (JAXA) ・基地周辺対策施設整備事業 (国) ・浜の活力再生・成長促進交付金 (国) ・水産多面的機能発揮対策事業 (国) ・水産基盤整備事業 (国) ・水産業競争力強化緊急事業 (クロマグロ混獲回避活動支援) (国) ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業 (国) ・経営体育成総合支援事業 (国) ・漁業経営セーフティネット構築事業 (国) ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業 (国)

4 年目 (令和 9 年度) 所得向上率 (基準年比) 22.8%

漁業収入向上のための取組	①漁場生産力の向上 (藻場造成、種苗放流、クロマグロ混獲回避、魚礁の整備による漁獲量の増大) ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協 (野間池支所、秋目支所、久志支所)、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、仔稚魚の保育の場・隠れ家・餌場となるアマモ場やガラモ場の造成を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協 (野間池支所、秋目支所、久志支所)、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、沿岸有用種であるアオリイカ資源の増大を図るため人工イカ柴産卵床の整備を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協 (野間池支所、秋目支所、久志支所)、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、県の「豊かな海づくり総合推進事業」を活用し、公益財団法人かごしま豊かな海づくり協会が生産したマダイ、ヒラメ等の種苗を購入し、資源の回復、増大を図るため種苗放流を行う。 ・笠沙町漁協、鹿児島県漁協 (野間池支所、秋目支所、久志支所) は、水産資源の維持増大を図るため、県の管理するクロマグロの漁獲量が T A C 採捕可能数量を超えているときに定置網にクロマグロが入網した場合は、放流するなど適切な資源管理に努める。 ・南さつま市は、整備した魚礁が適切に利用されるよう加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協 (野間池支所、秋目支所、久志支所)、坊泊漁協に対し積極的な利用を推進する。 ②魚価の向上、加工品開発、販路開拓 (共同集出荷)
--------------	--

	・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、機船船曳網漁業、吾智網漁業、小型底曳網漁業、定置網漁業、刺網漁業、一本釣り漁業、魚類養殖業で獲れるちりめん、ブリ、ヒゲナガエビ、キビナゴ、サバ、月日貝、養殖クロマグロなどの地域有用種及び小型底曳網漁業や定置網漁業等で混獲され廃棄されているスミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウ等の未利用・低利用魚を、鹿児島県漁協直営店「おいどん市場」、県内大手量販店、近隣スーパー、東京・大阪・福岡など都市部のデパート・飲食店、地域内外のイベント等で積極的に販売することで、知名度の向上、魚価の向上、販路拡大につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、県水産技術開発センターや鹿児島大学など専門家らの指導を仰ぎながら、地域で水揚げされるブリ、カンパチ、ヒゲナガエビ、スミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウなどの魚介類について加工品開発・販売を行い、魚価の向上につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で活魚、鮮魚、水産加工品等が効率的に効果的に販売できるよりのぼり旗、法被など販売資材の整備を行う。 ・笠沙町漁協は、整備された大型保冷車が適切に運用されるよう運用管理を継続する。
漁業コスト削減のための取組	①燃油コストの削減（省エネ機器の導入、船底清掃、減速航行等） ・機船船曳網業者、吾智網業者、定置網業者、養殖業者、刺網業者、一本釣り業者は、定期的に船底清掃、プロペラ清掃を行うほか、減速航行、係留中の機関停止を徹底し、燃油コストの削減を図る。また、エンジン更新の際は、省エネ型のエンジンを導入することで燃油コストの削減を図る。 ②操業の協業化 ・機船船曳網業者は、探索船による魚影の探索、操業・製品加工を交代制にするなど徹底した操業の効率化に努める。
漁村の活性化のための取組	①新規漁業就業者の確保・育成 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協では、漁業者の減少・高齢化が進んでおり、漁業後継者不足が深刻化している。そこで、県、南さつま市、県漁連が行っている新規就業者確保育成の研修制度や支援制度を活用して漁業後継者の確保に努める。 ②地産地消の推進 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、保育園、幼稚園、小中学校における出前授業、魚の捌き方教室を開催するなど、南さつま市内の魚食普

	及を推進する。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、学校給食へ魚介類メニューを導入し、地域水産物に対する認知度向上、地域水産物の消費拡大につなげる。 ③計画的な設備の更新 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、老朽化が進み、荷捌きに支障を来している野間池漁港の荷捌き施設の改修・整備を行う。 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、秋目漁港において、使用可能な冷媒ガスに対応した冷凍冷蔵施設の整備を行う。
活用する支援措置等	・種子島周辺漁業対策事業（JAXA） ・基地周辺対策施設整備事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業競争力強化緊急事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）

5 年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）23.1%

漁業収入向上のための取組	①漁場生産力の向上（藻場造成、種苗放流、クロマグロ混獲回避、魚礁の整備による漁獲量の増大） ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、仔稚魚の保育の場・隠れ家・餌場となるアマモ場やガラモ場の造成を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、沿岸有用種であるアオリイカ資源の増大を図るため人工イカ柴産卵床の整備を行う。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市と共同で、県の「豊かな海づくり総合推進事業」を活用し、公益財団法人かごしま豊かな海づくり協会が生産したマダイ、ヒラメ等の種苗を購入し、資源の回復、増大を図るため種苗放流を行う。 ・笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）は、水産資源の維持増大を図るため、県の管理するクロマグロの漁獲量がTAC採捕可能数量を超えているときに定置網にクロマグロが入網した場合は、放流するなど適切な資源管理に努める。 ・南さつま市は、整備した魚礁が適切に利用されるよう加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協に対して積極的な利用を推進する。 ① 魚価の向上、加工品開発、販路開拓（共同集出荷）
--------------	--

	・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、機船船曳網漁業、吾智網漁業、小型底曳網漁業、定置網漁業、刺網漁業、一本釣り漁業、魚類養殖業で獲れるちりめん、ブリ、ヒゲナガエビ、キビナゴ、サバ、月日貝、養殖クロマグロなどの地域有用種及び小型底曳網漁業や定置網漁業等で混獲され廃棄されているスミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウ等の未利用・低利用魚を、鹿児島県漁協直営店「おいどん市場」、県内大手量販店、近隣スーパー、東京・大阪・福岡など都市部のデパート・飲食店、地域内外のイベント等で積極的に販売することで、知名度の向上、魚価の向上、販路拡大につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で、県水産技術開発センターや鹿児島大学など専門家らの指導を仰ぎながら、地域で水揚げされるブリ、カンパチ、ヒゲナガエビ、スミクイウオ、アカカサゴ、キホウボウなどの魚介類について加工品開発・販売を行い、魚価の向上につなげる。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協、(有)ヤマチョウ、坊津蔵、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会は、南さつま市と共同で活魚、鮮魚、水産加工品等が効率的に効果的に販売できるようなぼり旗、法被など販売資材の整備を行う。 ・笠沙町漁協は、整備された大型保冷車が適切に運用されるよう運用管理を継続する。
漁業コスト削減のための取組	①燃油コストの削減（省エネ機器の導入、船底清掃、減速航行等） ・機船船曳網業者、吾智網業者、定置網業者、養殖業者、刺網業者、一本釣り業者は、定期的に船底清掃、プロペラ清掃を行うほか、減速航行、係留中の機関停止を徹底し、燃油コストの削減を図る。また、エンジン更新の際は、省エネ型のエンジンを導入することで燃油コストの削減を図る。 ②操業の協業化 ・機船船曳網業者は、探索船による魚影の探索、操業・製品加工を交代制にするなど徹底した操業の効率化に努める。
漁村の活性化のための取組	①新規漁業就業者の確保・育成 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協では、漁業者の減少・高齢化が進んでおり、漁業後継者不足が深刻化している。そこで、県、南さつま市、県漁連が行っている新規就業者確保育成の研修制度や支援制度を活用して漁業後継者の確保に努める。 ②地産地消の推進 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、保育園、幼稚園、小中学校における出前授業、魚の捌き方教室を開催するなど、南さつま市内の魚食

	普及を推進する。 ・加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協は、南さつま市、(有)ヤマチョウ、笠沙水産加工グループ、海の未来を語る会と共同で、学校給食へ魚介類メニューを導入し、地域水産物に対する認知度向上、地域水産物の消費拡大につなげる。 ③計画的な設備の更新 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、野間池漁港に整備された荷捌き施設が適切に運営されるよう運用管理を開始する。 ・鹿児島県漁協が実施主体となり、秋目漁港に整備された冷凍冷蔵庫が適切に運営されるよう運用管理を開始する。
活用する支援措置等	・種子島周辺漁業対策事業（JAXA） ・基地周辺対策施設整備事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国） ・水産多面的機能発揮対策事業（国） ・水産基盤整備事業（国） ・水産業競争力強化緊急事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国） ・水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） ・経営体育成総合支援事業（国） ・漁業経営セーフティネット構築事業（国） ・競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）

（５）関係機関との連携

・鹿児島県水産技術開発センターから、藻場造成に関する指導を受け、藻場の回復による漁業生産力の向上を図る。また、加工品開発の指導を受け、付加価値の向上による需要の増大と魚価の向上を目指す。 ・公益財団法人かごしま海づくり協会から、種苗放流について、種苗の供給と放流指導を受け、放流直後の生残率の向上を図り、漁業生産力の向上につなげる。 ・県漁連や九州魚市(株)の指導のもと、鮮魚の取扱、相場に関する情報を収集し、鮮魚販売の強化を図る。
--

（６）取組の評価・分析の方法・実施体制

浜プランの取組の実施状況及び効果の発現状況を自ら評価し、それを踏まえた取組の改善を検討するため、必要に応じて（少なくとも年に1回以上）浜プラン評価委員会を開催する（メール、Webによる報告、意見交換でも可とする）。委員会の構成員は、①事務局長、②加世田漁協（１名）、笠沙町漁協（１名）、鹿児島県漁協（１名）、坊泊漁協（１名）、(有)ヤマチョウ（１名）、坊津蔵（１名）、笠沙水産加工グループ（１名）、海の未来を語る会（１名）、南さつま市（１名）で構成し、委員は会長が委嘱する。
--

４ 目標

（１）所得目標

漁業者の所得の向上10%以上	基準年	
----------------	-----	--

上			
	目標年		

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

(3) 所得目標以外の成果目標

平均単価の向上	基準年	平成30年度～ 令和4年度の 平均：	523	円/kg
	目標年	令和10年度：	541	円/kg

新規就業者数の増加	基準年	平成30年度～ 令和4年度の 合計：	24	名
	目標年	令和6年度～ 令和10年度 の合計：	24	名

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

○平均単価の向上
取組内容の効果は、南さつま市の全ての漁協（加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協野間池支所・秋目支所・久志支所、坊泊漁協）に及ぶことから、目標は4漁協の平均単価の向上とした。基準年の平均単価は、平成30年度から令和4年度までの5カ年間の総会資料の水揚量と水揚金額を元に算出した。取組内容に即した現実的な数字で行っており、妥当な目標設定であると判断した。
○新規就業者数の増加
加世田漁協、笠沙町漁協、鹿児島県漁協（野間池支所、秋目支所、久志支所）、坊泊漁協の過去の新規漁業就業者数は、平成30年度は1名、令和元年度は7名、令和2年度は14名、令和3年度0名、令和4年度2名（累計24名）となっている。新型コロナウイルス感染症が収束し、今後、定置網業者の新規参入や養殖業者の事業拡大も見込めることから、令和6年度以降の目標は、第2期の実績と同じ合計24名の増員を目指す。実績を元にした現実的な数字で行っており、妥当な目標設定であると判断した。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
-----	----------------------

種子島周辺漁業対策事業 (JAXA)	内容：共同利用施設等を整備する際、一定の費用をJAXAが支援する。 →プランでは、老朽化した野間池漁港の荷捌き施設の改修や秋目漁港の冷凍冷蔵施設の更新を行うこととしている。
基地周辺対策施設整備事業（国）	内容：共同利用施設等を整備する際、一定の費用を国が支援する。 →プランでは、老朽化した野間池漁港の荷捌き施設の改修や秋目漁港の冷凍冷蔵施設の更新を行うこととしている。
浜の活力再生・成長促進交付金（水産業強化支援事業） (国)	内容：共同利用施設の整備、水産資源の管理・維持拡大、漁港漁場の機能高度化や防災・減災対策に必要な整備等を支援する。 →プランでは、老朽化した野間池漁港の荷捌き施設の改修や秋目漁港の冷凍冷蔵施設の更新を行うこととしている。
水産多面的機能発揮対策事業（国）	内容：漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する活動に対し、一定の費用を国が支援する。 →プランでは、漁業収入に対する取組（漁場生産力の向上）として、藻場保全など環境・生態系の維持や回復を行うことにしている。
水産基盤整備事業（水産環境整備事業） (国)	内容：水産生物の生活史に対応した良好な生息環境空間の創出及び水域の環境保全対策のために漁場の施設の整備等を行う。 →プランでは、漁業収入に対する取組（漁場生産力の向上）の取組として、藻場礁、増殖礁、魚礁等の整備を行うこととしている。
水産業競争力強化緊急事業（クロマグロ混獲回避活動支援）（国）	内容：定置網漁業の安定的操業のため、定置網におけるクロマグロの入網が確認された際、混獲を回避するための取組に対して助成する。 →プランでは、漁業収入に対する取組（漁場生産力の向上）として、県の管理する数量がTAC採捕可能数量を超えている時に定置網に入網したクロマグロは放流することとしている。
水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）	内容：リース方式による漁船・漁具等の導入を支援し、沿岸漁村地域の活性化を図るとともに、省エネ機器等の導入を推進し、燃油コストの削減につなげる。 →プランでは、漁業コスト削減（燃油コスト削減）のための取組として、必要としている漁業者に事業の活用を提案することとしている。
経営体育成総合支援事業（国）	内容：漁業・漁村を支える人材の確保・育成を強化するため、新規漁業就業者の確保や育成を行い、地域の活性化につなげる。 →プランでは、漁村の活性化に関する取組として新規就業者の確保・育成を支援することとしている。
漁業経営セーフティーネット構築事業（国）	内容：漁業者と国の拠出により、燃油価格などが高騰したときに補填金を交付する。 →プランの取り組み全体を支える。
競争力強化型機器等導入緊急対策事業（国）	内容：省エネ機器等の導入を行い、燃油消費量の節減により、燃油コストの削減を行い、漁業所得の向上につなげる。 →プランでは、漁業コスト削減（燃油コスト削減の取組）を推進するため、必要としている漁業者に事業の活用を提案することとしている。